

2022（令和4）年度

短期大学部  
食物栄養学科

学校推薦型選抜 公募推薦2期  
小論文試験問題

2021年12月11日（土）

午前9時30分～10時30分（60分）

字数 800字程度

【問題について】

1. この問題は、試験開始の合図があるまでは中を開けて見てはいけません。
2. 問題冊子の余白は、下書きなどに使用して差し支えありません。
3. 試験中に問題冊子の印刷不明瞭、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. この問題冊子は、持ち帰ってください。

【解答について】

1. 監督者の指示に従い、小論文解答用紙の受験番号欄を正しく記入し、志望学科欄に○印を付してください。
2. 解答用紙に小論文のタイトル・氏名の記入は不要です。  
解答は、配付した小論文解答用紙に1行目から縦書きで書いてください。
3. 記入には、黒色の鉛筆（シャープペンシル）を使用してください。

まだ食べられるのに、捨てられてしまう食べ物のことを食品ロスといいます。世界各地で、まだ食べることができるといわれる食品が、生産、製造、販売、消費等の各段階において日常的に廃棄されており、食品ロスの削減は国際的にも重要な課題となっています。

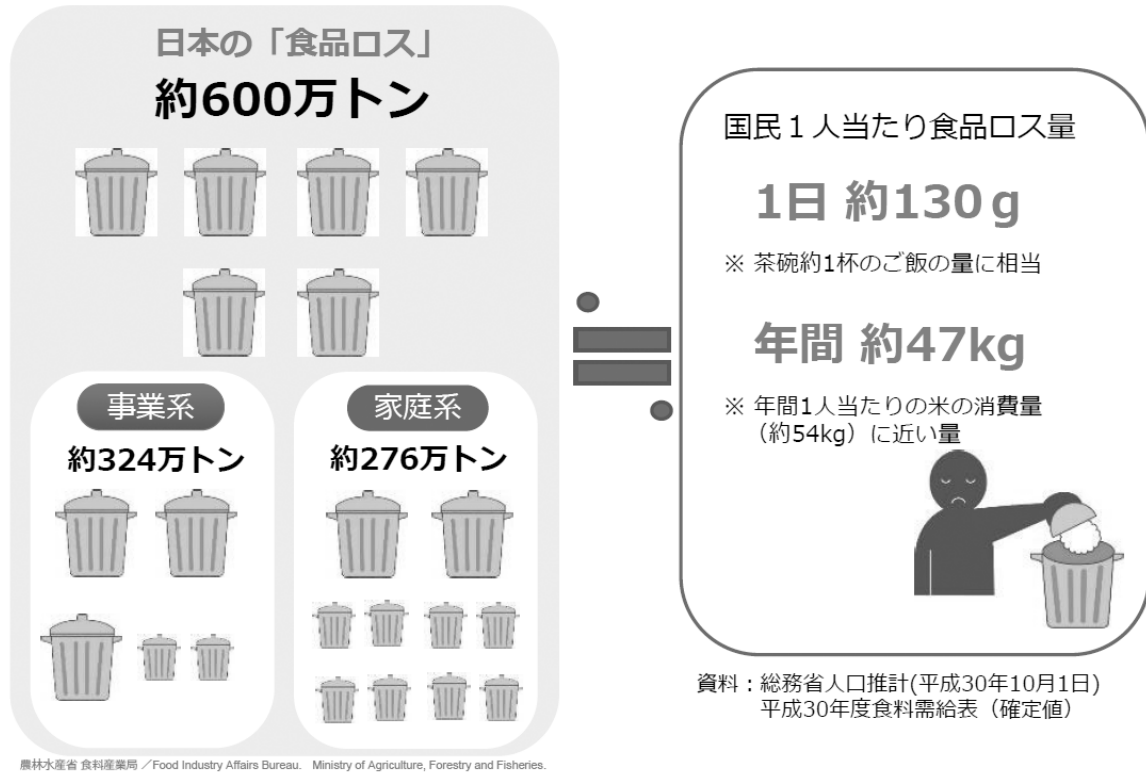
左図は、農林水産省および環境省が公表した平成三〇年度の食品ロスの推計値に基づく日本の食品ロスの状況です。図中、事業系は食品メーカーや飲食店などの外食産業において発生した量を、家庭系は一般家庭から発生した量を示しています。家庭系食品ロスの主な発生要因は、料理の作りすぎによる食べ残し、賞味期限切れ等による未使用での廃棄、調理時に野菜の皮などを厚くむき過ぎること、などです。

我が国においては、「食品ロス削減推進法（令和元年施行）」および「食品ロスの削減に関する基本的な方針（令和二年閣議決定）」に基づき、政府、地方自治体、事業者等による食品ロス削減の取組みが推進されています。また、消費者に対しても食品ロス問題を認知して、削減に取り組むことが求められています。

栄養士を目指すあなたは、食品ロスの現状をどのように考え、食品ロスを削減するためにはどのようなことに取り組んでいきたいと思いますか。左図を参考に、八〇〇字程度で述べなさい。（すでに実践していることがあれば、その内容についても記述して構いません。）

図

### 日本の食品ロスの状況（平成30年度）



農林水産省「食品ロス量（平成30年度推計値）の公表」（令和3年4月）より  
プレスリリース：<https://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/kankyoi/210427.html>  
図：<https://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/kankyoi/attach/pdf/210427-3.pdf>